

北海道胆振東部地震災害に関する調査報告

地震により発生した斜面災害・地盤災害の特徴と発生機構を明らかにしました。

背景

- 斜面崩壊が同時多発的かつ高密度に発生する特殊な事例の要因の解明が必要
- 現象が多岐にわたる地盤災害の条件やメカニズムなどの解明が急務
- 大地震に備えた安全・安心な“まちづくり”のための被害想定が重要

成果

1 斜面災害

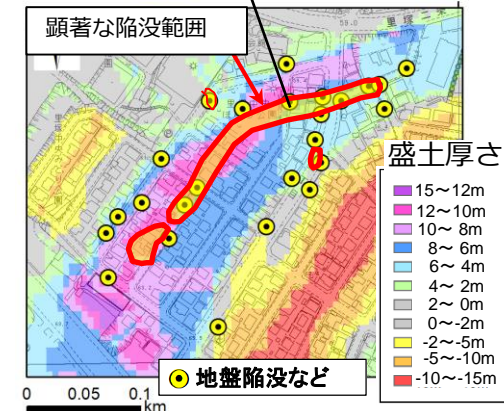
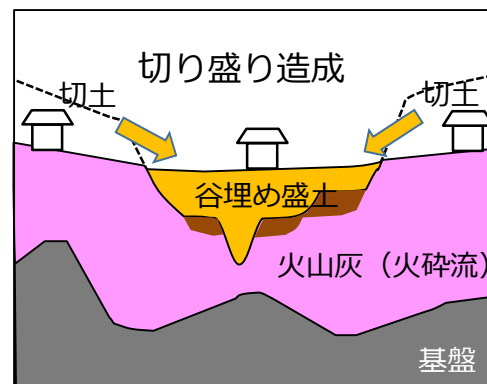


・ 浅い土層すべりは、樽前山や恵庭岳起源の火山灰層が厚く堆積する斜面上で発生

・ 深い岩盤すべりは、層構造の発達した地質で発生し、地層の傾斜方向に沿って移動

崩壊の発生しやすい丘陵地形の特徴や崩壊発生のメカニズム解明につながる地形・地質的要因を把握

2 地盤災害



- ・ 陥没が顕著に生じた範囲は谷埋め盛土の厚い箇所に該当
- ・ ボーリング調査の結果、盛土中に含水比の高い軟弱火山灰質土層を確認
- ・ 地震動により上記の層が液状化し、斜面下部から流出したと推定

期待される効果

災害の発生する場所の特徴やメカニズムなどの知見は、地震災害に対する国土強靱化に向けた防災計画の立案など安全・安心な“まちづくり”を進める施策に活用される

共同研究機関：北海道大学、京都大学、新潟大学ほか、協力機関：北海道水産林務部治山課、胆振総合振興局

問い合わせ：道総研 エネルギー・環境・地質研究所 電話：011-747-3521